

## 2013 年春号 研究室だより

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。同窓会員の皆様に、2012 年度の西洋史学研究室の近況をご報告させていただきます。

2012 年度の西洋史学研究室は、主任の神寶秀夫教授（ドイツ中・近世史）、山内昭人教授（インタナショナル史）、岡崎敦教授（フランス中世史）の 3 人の先生方のもと、学部生 14 人、院生 6 人の総勢 20 人の学生が日々研究に励んでいます。4 月には新たに元気いっぱいの 2 年生 4 人（隈部雄大君、佐藤志織さん、田口淳君、松本知佳さん）が進学してさらに研究室が賑やかになりました。

2012 年度も本研究室は学外との交流を活発に行い、前期には九州産業大学からイギリス帝国史・環境史がご専門の水野祥子准教授に非常勤講師としてご出講いただきました。ゼミには学部生が積極的に参加し、中でも 3 年生が卒業論文のテーマをドイツの環境史に決めるなど多くの刺激を受けたようです。また、12 月には京都大学の小関隆准教授をお招きして第一次世界大戦をテーマに集中講義をしていただきました。本研究室主催の学会・研究会関係では 12 月に九州史学会西洋史部会が例年通り開催され、報告は若手研究者を中心に活気のあるものとなりました。西洋史学研究室は、周辺の大学や研究教育機関と連携しつつ、研究教育・社会活動を推進しております。

このような研究室外での交流に加え、研究室内部でも学生間で活発に交流が行われ、研究室メンバーの団結の深まった一年となりました。3 年生が中心となって 4 月には進学生歓迎コンパを、10 月には材料・道具まで全部用意してバーベキュー・パーティーを行うなど今年のコンパ係は大活躍しています。このような和気あいあいとした雰囲気の中、各々が切磋琢磨して研究や就職活動に勤しんでいます。研究室行事については学部生・院生皆で協力し、8 月のオープン・キャンパスでは高校生に、9 月の研究室訪問では 1 年生に西洋史の魅力をアピールしました。より多くの高校生・1 年生が研究室を訪ねてくれるよう、学部生の発案で、今年からはヨーロッパを代表する漫画キャラクター、ムーミンのぬいぐるみを研究室の入り口に飾り、よりアットホームな雰囲気を演出しています。2012 年度の最後の行事は論文の提出ですが、学部 4 年生 6 人がフランス中世史、ドイツ近世史、イギリス近・現代史、フランス現代史といった幅広いテーマで卒業論文を提出しました。

大学院では修士 2 年の陣内力君がイタリアの北大西洋条約への参加過程について、竹ノ内理沙さんが中世末期フランスにおける王権の表象について修士論文を執筆中です。竹ノ内さんは 10 月に福岡大学で開かれた九州西洋史学会・若手部会にて修士論文のテーマを発表し、他大学の学部生・院生と交流を深めま

した。

博士課程では、博士1年の高津智子（欧州統合史）がアジア・EU国際会議にてフルペーパーを発表、ワークショップ西洋史・大阪、九州EU研究会で報告を終え、日本学術振興会の特別研究員に内定しました。フランスに留学していた博士3年の法花津晃さん（フランス中世史）は夏に帰国し、現在博士論文の完成に向けて勤しんでおり、研究室外では九州西洋史学会・若手部会執行部メンバーの副部長として学会運営にも携わるなど忙しい日々を送っています。同じく博士3年の大浜聖香子さん（フランス中世史）は9月からベルギーに留学しており、実り多い留学となることを願っています。

2012年度はこれまで熱心に学生をご指導くださった神寶教授が退官され、学部生からは6人、修士課程からは2人が本研究室を卒業しました。大変寂しい気持ちではありますが、研究室メンバー一同心をこめて新たな旅立ちを祝福し、研究室をさらに発展させていきたいと思えます。

それでは末筆ながら、卒業生のみなさまのますますのご発展を心からお祈りいたします。

（文責 高津智子）